

様式 1 2（両面印刷）【記入例】

調 査 書

入学願の 受付番号	ふりがな 氏 名		性別		生年月日	平成 年 月 日生
	学校名	立 学校〔 令和 年 月 日卒業 □卒業見込み 〕				
	中学校 3年次の 在籍学級	特別支援学級：□一般学級 □重複障がい学級 中学校：□知的障がい学級 □自閉症・情緒障がい学級 □〔 〕学級 □通常の学級 通級による指導〔□受けている、□受けていない〕				

※該当するところに☑を付け、必要に応じて〔 〕に記入すること。

1 学習の記録（履修及び習得の状況）

教科	履修内容 ※複数該当する場合には主なもの一つ選択					習得状況	
						内容の理解度 ※該当番号に○	具体的な状況 ※履修学年又は小中学部の段階を必ず記入。
国語	当該学年 (中3年)	下学年 (中2, 1年)	下学年 (小6-1年)	知的 (中学部)	知的 (小学部)	1 おおむね理解 2 部分的に理解 3 ごく一部を理解	<div>① 履修学年、段階 「○学校(学部) ○学年(段階) を履修。」</div> <div>② 習得状況 「○○について△△ができる。」 「○○の△△ができつつある。」 等、どの内容がどの程度習得 (理解) できたか記入する。 (例) ・ 4年生までの漢字の読み書きが できる。 ・ 一次方程式を解くことができ つつある。 ・ 日なたと日陰の地面の温度を測 り、暖かさの違いに気づくことが できた。</div>
社会	当該学年 (中3年)	下学年 (中2, 1年)	下学年 (小6-1年)	知的 (中学部)	知的 (小学部)	1 おおむね理解 2 部分的に理解 3 ごく一部を理解	
数学	当該学年 (中3年)	下学年 (中2, 1年)	下学年 (小6-1年)	知的 (中学部)	知的 (小学部)	1 おおむね理解 2 部分的に理解 3 ごく一部を理解	
理科	当該学年 (中3年)	下学年 (中2, 1年)	下学年 (小6-1年)	知的 (中学部)	知的 (小学部)	1 おおむね理解 2 部分的に理解 3 ごく一部を理解	

2 学校生活の様子

※生徒の興味・関心等を具体的に記入すること。

3 総合所見及び指導上参考となる事項

4 出欠の記録

学 年 区 分	1 年	2 年	3 年
出席しなければならない日数	日	日	日
欠 席 日 数	日	日	日
備 考 (欠席の理由等)			

※卒業見込み者は、3年次は11月末までを記入すること。

5 必要な配慮や支援に関する事項

	項目	必要な配慮や支援 ※行っている配慮や支援又は必要とされる配慮や支援を記入する
健康面	健康状態・生活リズム	(例) 服薬の状態を朝から確認する。
学習場面	板書の理解	(例) 見えやすいように前方へ座席を配置する。
	説明の理解	(例) 絵カードや文字カードを使用する。
	注意・注目	(例) 視覚的刺激軽減のため掲示を減らす。
	ノートテイク	(例) 枠付きノートを使用する。
	制作・実験・実習	(例) 工程をフローチャートで示す。
	屋外活動	(例) 事前に活動場所の確認と確保をする。
生活場面	食事	(例) 底部に滑り止めのある食器を使用する。
	排泄	(例) 定時言葉を掛ける。
	着替え	(例) 表裏、前後を確認する。
	衛生・清潔	(例) 身だしなみを整えるための姿見を活用する。
	移動	(例) 補装具を使用する。
コミュニケーション	意思表示	(例) ICT機器を活用して意思を確認する。
	内容理解	(例) 内容理解のための時間を十分確保する。
集団活動	参加	(例) 集団内での役割分担を明確にする。
	対人	(例) 他人の批判に関わることは話さないように確認する。
	情緒	(例) 情緒が不安定なときに落ち着くことができる場所を確保する。

☆「〇〇を△△する」
「〇〇するため△△
する」等、明記する。
☆必要ない場合は「該当
なし」と記入する。

本書の記載事項には誤りのないことを証明します。

令和 年 月 日

学校所在地

学 校 名

校 長 氏 名

記載者職氏名

職印

印